

「うつ休職」前兆 勤務データで察知

ストレスに弱い従業員が週2回遅刻し、月2回休んだら、「うつ休職」の危険があります。人事支援システム会社の「サイダス」(東京都港区)は今月中旬、欠勤や遅刻の状況から、従業員がうつ病で休む前兆を見つけ、会社に警告を送るサービスを始める。大量の情報を分析するビッグデータの手法を活用する。

人事システム会社 企業へ警告サービス

同社は約3万人のサラリーマンのデータを集めて、うつ病で休んだ人の性格の特徴や、病気にかかる前の勤務状況分析。ストレス耐性の低い人が、うつ休職する場合に一定の勤務パターンがあることを見つけた。

たとえば、「週2回遅刻し、月2回欠勤」「月曜と火曜の欠勤が多い」「午後10時以降の残業が頻繁に続く」といった勤務パターンは、危険な兆候という。

サイダスは従業員にアンケートして、ストレスに弱い人を把握、企業からは出欠や遅刻などの勤務データを受け取る。欠勤や遅刻の増え方に危険な兆候が見えると、企業にメールで警告を送る。危険かどうかは「圧迫型」など上司の性格もふまえて判断する。警告を受けとった企業には、負担を減らしたり、相談のつたりといった対応を促す。うつ病など「心の病」で労災認定された人は2012年度は475人で、前年度の1.5倍に増え過去最多だった。サイダスの松田晋社長は「ストレスに弱くても優秀な従業員は多い。休職したら企業にとって損失は大きい」と話す。サービス名は「サイダスケア」。利用料は従業員数に応じて決まり、1千人の場合1人あたり月350円。3カ月間は無料。(高重治香)